

科目名	真言密教講読演習 I			学期	前期	単位数	2	担当者	北川真寛
副題	真言密教の儀礼の解説と体験（初級篇）								
ナンバリング	M3-01-299	授業方法	講義	実務経験の有無			有	関連DP	1,2,5

授業の目的と概要

真言密教において、理論と実践は車の両輪に譬えられ、その両方を学び修することを重視する。そこで、思想や教理を座学のみによって学ぶだけでは汲み尽くせない真言密教の奥深い境地の一端を体験するために、真言密教における実践行を実際に体験する。

授業の到達目標

- ・真言密教における基本的な実践行を体験し、奥深い真言密教の世界にふれる。
- ・真言密教の実践行がいかなるものかを正しく体解する。
- ・真言密教の基礎的な実践行を体験し、自ら実践できるようになる。

授業計画

1. 真言密教の読経—仏前勤行次第の解説と読誦（1）—
2. 真言密教の読経—観音経の解説と読誦・理趣経の解説—
3. 真言密教の読経—訓読般若心経の解説と読誦—
4. 真言密教の写経—般若心経の写経体験—
5. 真言密教の行法—礼拝行の解説と実践—
6. 真言密教の行法—護摩行の解説—
7. 真言密教の仏像—解説—
8. 真言密教の荘嚴—仏具・衣体の解説—
9. 真言密教の声明—解説と実唱（1）—
10. 真言密教の瞑想法—解説と実修（1）—
11. 真言密教と茶道—解説と喫茶—
12. 真言密教の祈願法—密教占星術解説—
13. 真言密教の葬制—古代～現代の日本における葬制解説—
14. 真言密教の回向法—十三仏信仰解説—
15. 巡礼・遍路—解説—

準備学習（予習・復習）・時間

- ・事前準備として、都度シラバスを確認し、用意すべき道具類や指示された書類を準備すること（30分）。
- ・事後学習として、読経や瞑想などを続けておくこと（60分）。

テキスト

講師が用意する。

参考書・参考資料等

講義中に紹介する。

学生に対する評価

授業参加の積極性（60%）、期末レポート（40%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）講義での実践行に参加する。
- （B）講義での実践行を完遂できる。
- （A）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解できる。
- （S）講義での実践行を完遂し、さらにその意義を理解して自分の言葉で説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

その他

- ・実際に体験して学ぶこと（アクティブ・ラーニング）を中心にした講義である。
- ・瞑想法実修の際は、動きやすい服装にて行う。
- ・別途、実修費を徴収する場合がある（数百円）。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

高野山真言宗の僧侶であり、真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶として真言密教の実践行について解説し、実修を指導する。